

## 幼稚園、保育園、こども園での読み聞かせの流れ（30分の場合）

先生による導入の説明 3分

先生による絵本の読み聞かせ 10分 \*読み聞かせは保護者等第三者が行うことも出来ます。

先生による内容理解の確認 5分 基本は1~3。状況によって発展させて4、5を扱う

Q1.カーくん元気がないのは、なぜでしょうか？ カーくんは、自分をお友達と比べて、自分には良いところがないと思ってしまい、心が病気になるかけていました。体が病気になるように、心も病気になることがあります。ひどくなると、カーくんのように「自分なんか死んだ方が良い」と考える人もいますので、治してあげることが大切です。

Q2.カーくんは、本当に、だめな鳥だったのでしょうか？ カーくんは森を作る仕事をしていました。体の模様はお星様のようにきれいでした。どんな人にも、良いところが必ずあります。自分の良いところを見つけ、お友達の良いところも見つけて、伝えて下さい。

Q3.カーくんが元気になったのは、どうしてでしょうか？ ホー先生やお友達が、カーくんに声をかけ、カーくんの話を聞いたから。自分の良いところを伝えてもらい、嬉しくなったから。

Q4.カー君のようなお友達が近くにいたらどうしますか？ まわりに、少しでも元気がない人がいることに気付いたら、優しく声をかけて話を聞いて下さい。

Q5.あなたがカーくんのように、元気がなくなった時は、どうすると良いと思いますか？ 自分が悩んだ時には、カーくんのように、先生やお父さん、お母さん等に話してみてください。「チャイルドライン」、「いのちの電話」等電話で相談できる場所もあります。（絵本付録参照）。話すことで、気持ちが軽くなる場合があります。

子ども達に思ったこと、感じたことを自由に発言させたり、先生が5~10人程度の子供達に感想を聞いていく。 5分

先生によるまとめの話 2分

子ども達に思ったこと、感じたことを書いてもらう 5分

### この絵本を使って、考えることができること

- 1.ひとりひとりの命がかげがえのない尊いものであり、生きていることに意義があること。
- 2.人には、その人にしかできないこと、良いところが必ずあることを学び、人の欠点を探したり、個性や特徴をマイナスととらえ非難したりいじめたりするのではなく、長所をとらえ、美点・長所を見つけて伝えることが大切であること。
- 3.死を考える程気分が沈んでいる辛い気持ちの人の心情を考え、そのような人に対して、優しく声掛けし、気持ちに寄り添って話を聴くことが大切であること。
- 4.自分自身が、気分が沈んで元気が出ない時には、先生や両親、信頼するお友達等に悩みを話してみるにより、気持ちが軽くなる場合があること。「チャイルドライン」、「いのちの電話」等の相談機関があること。
- 5.人はひとりでは生きていくことができず、支え合い、助け合い生きていくこと。

上記の流れを基本として、読み聞かせは、15分から40分の間で、園の教育方針、クラスの状況や、子どもの年齢と発達段階、その時々の子供達の意欲等により、順序を入れ替えたり、クイズ形式を取り入れたり、内容は適宜変化をつけて行うことが出来ます。

読み聞かせの後には、教師や保育士が語りかけたり、質問を投げかけたりすることで内容の理解を確認してゆきます。絵本の読み聞かせは、視覚、聴覚からの刺激により、子ども達にその内容を記憶に残す効果が高いことが証明されておりますが、さらに、先生の表現による言葉を聞きながら、幼児は自分の考えや気持ちを振り返り、整理し、また、自分の言葉で人に伝える表現の方法を学んでいくため、先生が述べる絵本の説明や、感想・意見を聞くことは、子ども達が、かけがえのない命の大切さや他者への思いやり、優しさ、気遣いや、相談することの重要性等を学び、自分自身のものとするための重要な要素となります。さらに、子ども達は、教師、保育士、友達、或いは保護者等の第三者に、絵本を読んで感じたことや思ったことを伝えることで、自分の思いを再確認し、また、教師、保育士は子ども達の命についての考え方や心の状態を知り、フォローと心のケアをすることが出来るようになります。

ひらがなや漢字の学習が進められている園では、感想文の製作に重点を置くことで効果を高めることが期待できますが、絵本の読み聞かせは、子ども達の心に残す印象が大きいと、各園の状況に応じて、給食や、お昼寝の時間の前、或いは帰りの時間を利用して行うことや、その繰り返しは、短時間であっても教育的効果があります。